

吹田市地域ケア会議・すいたの年輪ネット

(吹田市高齢者生活支援体制整備協議会)

～令和3年度(2021年度)の報告と 令和4年度(2022年度)の取組～



令和4年(2022年)4月
吹田市 福祉部 高齢福祉室



目次

はじめに	1
1 「地域ケア会議」と「すいたの年輪ネット」の役割	3
2 令和3年度(2021年度)の取組方針と活動実績	7
(1) 地域ケア会議	
ア 令和3年度の取組方針	
イ 令和3年度の主な活動実績	
(2) すいたの年輪ネット	
ア 令和3年度の取組方針	
イ 令和3年度の主な活動実績	
3 令和3年度(2021年度) ブロックからの活動報告	
(1) JR以南地域ブロック	14
(2) 片山・岸部地域ブロック	16
(3) 豊津・江坂・南吹田地域ブロック	18
(4) 千里山・佐井寺地域ブロック	20
(5) 山田・千里丘地域ブロック	22
(6) 千里ニュータウン・万博・阪大地域ブロック	24
4 令和4年度(2022年度)の取組の予定	26
(1) 地域ケア会議の運営	
(2) すいたの年輪ネットの運営	
(3) 地域ケア会議とすいたの年輪ネットと自立支援型ケアマネジメント会議との連動の促進	
5 会議開催情報	
(1) 令和3年度(2021年度)参加者数等	29
(2) 令和4年度(2022年度)開催日年間予定	

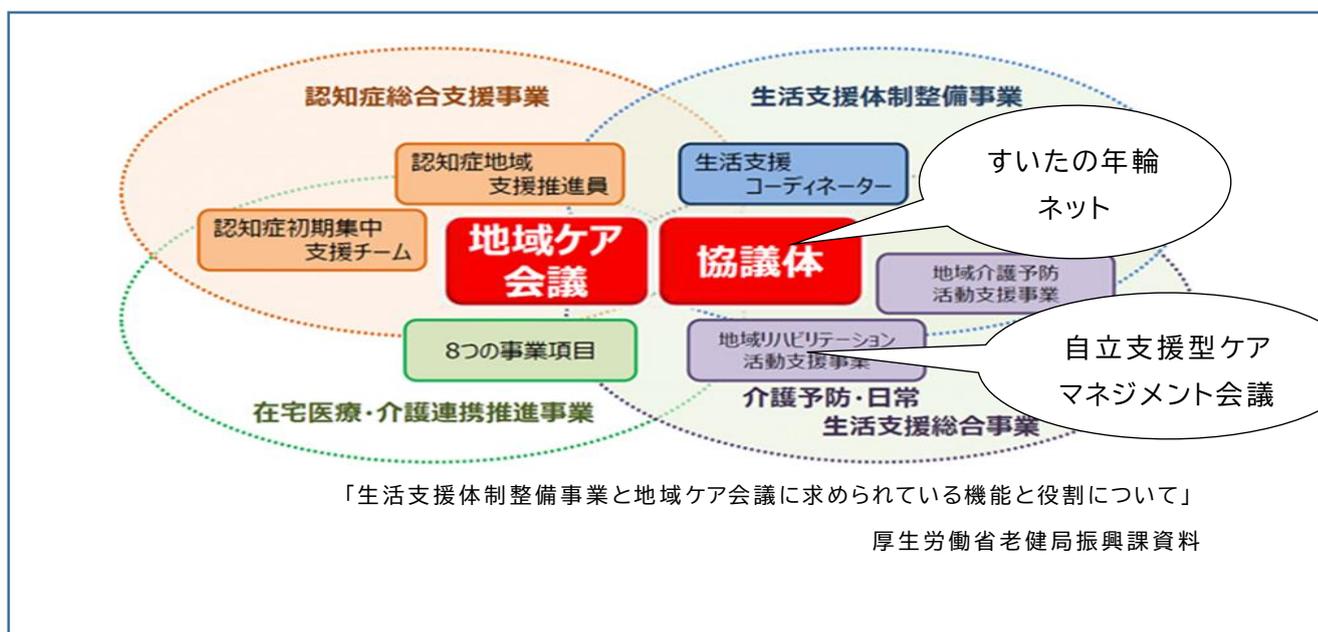
はじめに

本市では、介護保険制度開始後まもなくの平成14年度(2002年度)から地域ケア会議を開催し、地域のネットワーク構築を図る総合調整の推進の場として20年が経過しています。

平成27年度の介護保険法改正に伴い、地域包括ケアシステムの構築に向けて、「介護予防・日常生活支援総合事業(総合事業)」、「生活支援体制整備事業」、「在宅医療・介護連携推進事業」、「認知症総合支援事業」の4事業の取組を開始し、生活支援体制整備事業については、平成28年度から広域型生活支援コーディネーター(※1)の配置や協議体(愛称:すいたの年輪ねっと)を設置し、高齢者の社会参加と生活支援の充実を図っています。「地域ケア会議」と「生活支援体制整備事業」のいずれもが地域課題や社会資源の開発等に焦点を当てた検討を進めているため、令和元年度からは、両者の連動に向けた取組を進め、令和2年度から「地域ケア会議」と「すいたの年輪ネット」で取り組んだ内容の報告と、それを踏まえた次年度の方角性等を、冊子「報告と取組」として発行しています。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していますが、このような状況の中でも、多くの関係機関や地域の方々と知恵を出し合い、感染防止対策を徹底しながら活動しています。

「地域ケア会議」と「すいたの年輪ネット」は、高齢者の健康寿命を延伸し、安心安全な地域づくりを目指すものであり、元気な高齢者が活躍することで地域が活性化し、地域の活性化を市全体へと広げることで「ずっと吹田で、ずっと元気に」生活していただけることを目指しています。



また、介護予防と重度化防止を目的として取り組んでいる自立支援型ケアマネジメント会議(※2)を、国が示す地域ケア会議の個別会議として位置づけ、地域課題の抽出等行っていきます。

※1 広域型生活支援コーディネーター

日常生活上の支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅で健やかに安心・安全に継続して住み続けられる地域づくりのため、生活支援の担い手の養成やサービスの資源開発、サービス提供主体等の関係者のネットワーク構築を進める人。本市では、全市域を担当する広域型1名を平成28年度から配置している。

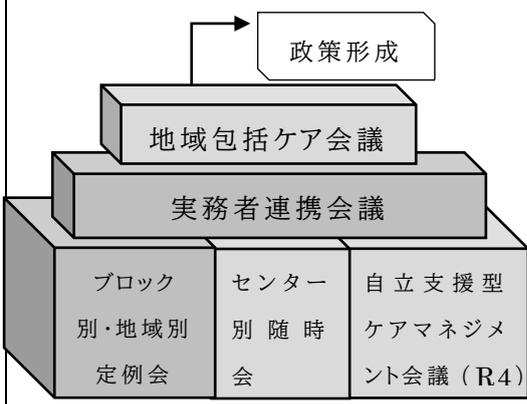
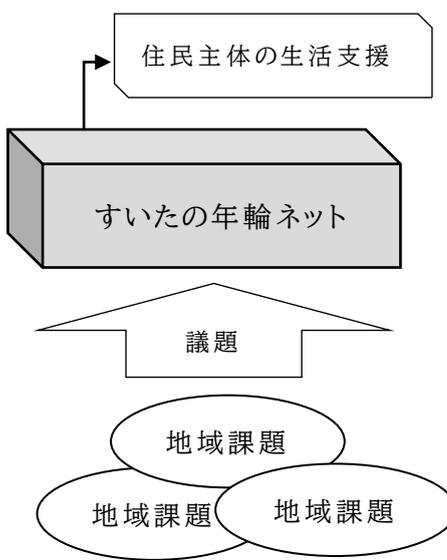
※2 自立支援型ケアマネジメント会議

要支援1.2及び事業対象者の方を対象に介護予防・重度化防止のため、多職種協働(理学療法士・作業療法士・言語療法士・歯科衛生士・管理栄養士・地域包括支援センター3職種)によって個別事例の検討を行い、高齢者の自立を支援する取組。

本市では平成29年(2017年)7月から開催。

1 「地域ケア会議」と「すいたの年輪ネット」の役割

「地域ケア会議」と「すいたの年輪ネット」はどちらも、高齢者の健康寿命を延伸し、安心安全な地域づくりを目指すものですが、設置の趣旨等に下記の表のような役割があります。

地域ケア会議	項目	すいたの年輪ネット
平成14年(2002年)3月15日	設置要領 施行日	平成28年(2016年)4月1日
介護、保健、医療、福祉、並びに地域(以下、「関係機関」という。)の円滑な連携のもと、支援を要する者に効果的に包括的な支援が行えるよう、それら関係機関のネットワークの形成及び推進を図るとともに、地域の様々な社会資源を総合的に提供できるよう総合調整を推進し、もって福祉の向上を図ることを目的とする。	設置の趣旨 支援者による医療や福祉等の課題解決中心  生活の課題や高齢者の活躍の場の課題解決中心	高齢者の日常生活の支援に係る体制の整備その他を促進するため、関係機関、関係団体及び高齢者等の生活支援サービス提供主体等、その他の関係者(以下「関係機関等」という。)が幅広く参加して定期的な協議を行い、相互の連携を図ることにより、地域の実情に応じた高齢者の生活支援体制の整備を図ることを目的とする。
ブロック別・地域別定例会、センター別随時会、実務者連携会議、地域包括ケア会議の三層構造  令和2年度(2021年度)再編 三層構造は変わらず、名称・回数等見直し	会議体の構成	地域課題について協議を行う、全市域を対象とする会議体 

地域ケア会議	項目	すいたの年輪ネット
<p>【ブロック別・地域別定例会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要援護者等の実態やニーズの把握並びに介護・保健・医療・福祉サービスの総合調整や情報交換に関すること ・居宅介護支援事業者等の実務担当者への直接的な指導・支援に関すること等 <p>【センター別随時会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援困難事例を抱えるケアマネジャー等からの随時の要請に基づき、適切な支援提供を目的に、サービスの調整等を行うこと <p>【実務者連携会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック別ケア会議の総合調整に関すること等 <p>【地域包括ケア会議】</p> <p>全市的課題の共有と課題解決策に関すること等</p>	<p>意見を聴取する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における生活支援サービスの状況把握に関すること ・生活支援サービスの資源開発及び基盤整備に関すること ・生活支援サービス提供組織の活動の維持・発展のための活動基盤の支援策等に関すること ・関係機関等とのネットワーク化に関すること 等 
<p>医療・介護の専門職、地域の支援者、社会福祉協議会、地域包括支援センター、行政機関、その他の関係機関等</p>	<p>構成団体 (員)</p>	<p>学識経験者・生活支援サービスを提供している事業者等 市内の福祉関係団体及び公共的団体の代表者・介護保険のサービス事業者等・吹田市広域型生活支援コーディネーター 市民委員・関係機関・行政機関</p>

「地域ケア会議」は、主に医療や福祉等に関する個別事例から導き出された地域課題の検討を積み重ね、個別課題解決機能、ネットワーク構築機能、4地域課題発見機能、地域づくり・資源開発機能、政策形成機能を活用して、高齢者等に対する支援の充実や社会基盤の整備を進めるとともに、地域において尊厳のあるその人らしい生活の継続の実現を目指すものです。吹田市域を日常生活圏域の6ブロックや地域包括支援センターごとに開催する会議を備えています。

「すいたの年輪ネット」は、市全域を対象に開催しており、高齢者の生活上の支援の充実について、行政サービスのみならず、NPO、ボランティア、民間企業等の多様な事業主体による重層的な支援体制を構築することが求められる中、同時に高齢者の社会参加をより一層推進することを通じて、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍するなど、高齢者が社会的役割をもつことで、生きがいや介護予防につながる取組も重要と考えています。学識経験者や生活支援サービスを提供している事業者、福祉関係団体や公共団体、市民委員等が定期的に情報共有及び連携・協働して、取組を推進しています。また、吹田市社会福祉協議会に委託して配置している広域型生活支援コーディネーターが、多様な主体による資源開発等の取組のコーディネート機能を担っています。



2 令和3年度(2021年度)の取組方針と活動実績

(1) 地域ケア会議

ア 令和3年度の取組方針

(ア) ブロック別・地域別定例会については、地域の実情に合わせ各包括が主体的に運営を行い、個別事例の支援の検討を積み重ねることで地域課題や資源の把握を図ります。コロナ禍であっても地域におけるネットワーク構築に繋がる基盤となるよう、オンラインによる開催方法等の検討を進めます。

(イ) 各包括とCSWの連携を強化し、地域のニーズと参加機関の具体的な地域活動の情報を、構成員と共有できるように取り組みます。

(ウ) ブロック別・地域別定例会から導き出された地域課題については、地域住民や団体、地域の支援者が主体である身近な社会資源創出の検討や、地域づくりを促進する「すいたの年輪ネット(吹田市高齢者生活支援体制整備協議会)」と連動した取組を進め、多方面からの地域のネットワーク構築を目指します。

イ 令和3年度の主な活動実績

(ア) ブロック別・地域別定例会

令和2年度は、コロナ禍でブロック別・地域別定例会が各ブロック1回のみの開催となったことから、構成員から「こんな状況だからこそ、情報共有や意見交換が必要ではないか」との声も多く、令和3年度は、地域の状況に合わせて、ZOOMを活用したオンライン会議や書面開催、参集の場合はマスクの着用、3密の回避等感染予防対策を徹底し人数制限をしたうえで開催するなど、予定通り各ブロック4回開催することができました。

定例会では、事例検討やコロナ禍における課題や取組の意見交換、防災や特殊詐欺、権利擁護の学習会、市で取り組んでいる「保健事業と介護予防の一体化実施データ分析結果」についての報告も行いました。また、地域別定例会の開催により地域に密着した課題について意見交換等を行うこともできました。

(イ) 包括センター別随時会

令和3年度に検討した事例は3事例で以下のとおりです。

開催日 令和3年10月13日(水)

「認知症のある方の支援について」(1回目)

開催日 令和3年11月17日(水)

「認知症のある方の支援について」(2回目)

開催日 令和4年2月7日(月)

「高齢者の見守りについて情報共有、方法の検討」

(ウ) 実務者連携会議

令和3年8月19日(木) オンライン開催

コロナ禍での各ブロックの定例会の報告を行い、地域活動の取組や地域別定例会開催のための工夫点等の意見交換を行いました。弁護士からはオンラインでの事例検討を行う際の留意点として、年齢や性別、介護度等を変更したり、二つ以上の事例をミックスし個人が特定されないようにする等、個人情報には細心の注意が必要との助言を受け、それぞれのブロック別定例会の運営の参考にすることができました。

(エ) 地域包括ケア会議

令和4年3月18日(金) オンライン開催

令和3年度も感染防止対策のため、参加人数や開催時間を縮小して、オンラインで開催しました。1年間の「地域ケア会議」と「すいたの年輪ネット」の取組報告を行い、コロナ禍における課題の共有や連携の方法、解決に向けた具体策等について意見交換を行いました。

吹田市民生・児童委員協議会からは、地域の防災委員会の立ち上げには、災害時要援護者名簿のICTを活用した情報の共有が必要であり、市へシステム化に向けての要望がありました。

吹田警察署からは高齢者の虐待防止について、早期発見、周知・啓発の依頼がありました。

また、吹田市保健所より、新型コロナウイルス感染症の近況報告があり、長期化する状況の中、介護サービス提供を持続するには、引き続き、福祉部、地域包括支援センター、介護保険事業者の連携と協力が重要であると確認し合いました。

(オ) 研修

令和3年12月20日(月) オンライン開催

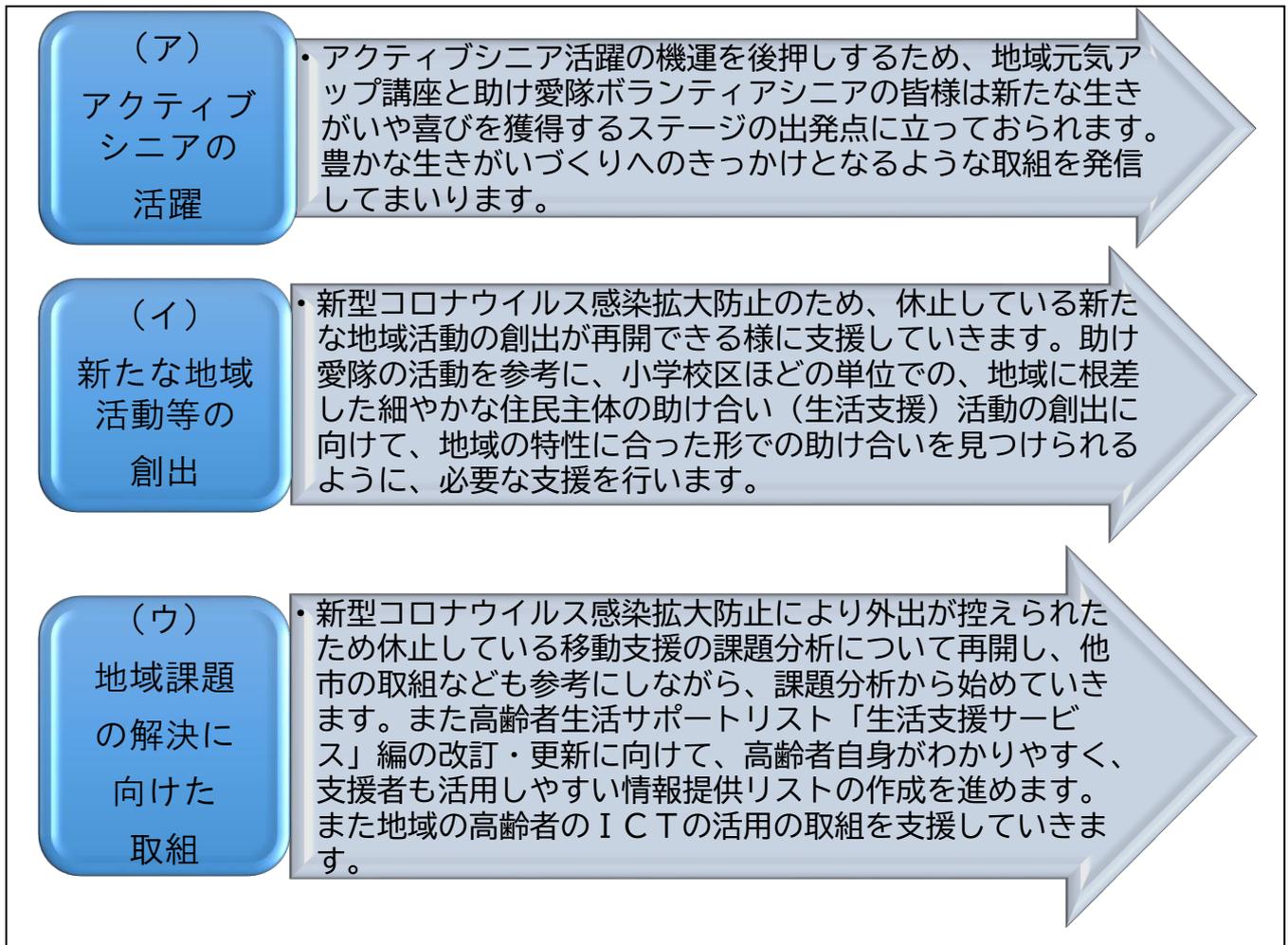
「減災ナースとしての地域連携―「受援力」について考えよう」をテーマに清泉女学院大学大学院看護学研究科 小児期看護学准教授 北村千章氏を講師に迎え、初めてオンラインで開催し74名の受講がありました。多くの受講者から、講師の被災体験を基にした講義と動画による避難状況のシミュレーションがとても分かりやすく、今後の活動に活かせるとの意見がありました。研修内容については、吹田市ホームページで閲覧できます。

[吹田市ホームページ](#)>[組織一覧](#)>[福祉部](#)>[高齢福祉室](#)>[審議会等](#)>その他



(2)すいたの年輪ネット

ア 令和3年度の取組方針



『すいたの年輪ネット 報告と取組（令和3年（2021年）4月発行）から

イ 令和3年度の主な活動実績

令和3年度のすいたの年輪ネットは、ハイブリッド型（オンラインと参集）で3回開催することができました。

(ア) アクティブシニアの活躍

6月30日「助け愛隊ボランティア養成講座（※1）」を、開催しました。11名の参加者の内、7名が登録され、48名（10/1現在）に増えました。緊急事態宣言下やまん延防止等重点措置期間は活動中止としましたが、宣言解除後には少しずつ利用相談件数も増えました。また、地域元気アップ講座（※2）は開催でき

ていませんが、各々の地域の活動の中、アクティブシニアの養成や多様な団体との連携の中で、担い手養成をしました。

※1 助け愛隊…すいたの年輪ネットで素案を協議し、吹田市社会福祉協議会が中心となって創出した地域での住民主体の助け合い活動（令和元年6月からマッチングを開始）。

※2 地域元気アップ講座…広域型生活支援コーディネーターとすいたの年輪ネットの構成団体を中心となって、地域活動や近隣での助け合い活動の担い手養成を目的として開催する講座。地域で活躍するアクティブシニアを創出する。

(イ) 新たな地域活動等の創出

a 地域版助け愛隊

山三地区（愛称：つながり隊）や、吹一地区単一自治会でも活動が開始しました。

b 「ふれあい外出配食」の移動支援

佐竹台地区では、広域型生活支援コーディネーターがCSW、地域包括支援センターと連携して、地区福祉委員会と意見交換や地域課題の共有を行いました。その中でも地域ケア会議で挙げられていた地域課題「移動支援」について、地域の福祉施設との連携により、移動支援を実現するところでしたが、まん延防止等重点措置により延期となりました。

(ウ) 市民フォーラム「元気・健康フォーラム 2021」の開催

12月15日（水）、千里市民センターと内本町コミュニティセンターの参集と2会場をオンラインで繋ぎ、48名の参加がありました。

講師には大阪教育大学 特任教授 新崎 国広氏を迎え、『アクティブシニアのススメ ～高齢者の社会参加・参画が高齢者社会&地域共生社会を支える～』をテーマに講演をしていただき、すいたの年輪ネットの委員より5年間の「すいたの年輪ネット」の取組を紹介しました。

意見交換会ではコロナ禍の地域の高齢者の生活課題や、あったらいいな！With コロナの高齢者生活支援活動について、話し合いを行い、コロナ禍で人づきあいが減っている、コロナ禍だからこそ見守りや声掛けが大切であることや、地域で開催したスマホ講座で大学生との交流が図れたことに併せて、スマホで家族や友人と繋がることのできたなど多くの意見がありました。

(工)地域課題の解決に向けた取組

a 高齢者対象のオンライン講座の開催支援

オンラインを活用し、「つながり作り」「情報取得」「多様な団体との連携」を意識し、各地域の特性や地域の課題に対する「地域での意見交換会」の開催に向けて、地域の団体や地区福祉委員会、CSW、大学生ボランティアや地域包括支援センター、介護保険事業所などと話し合いを重ね、広域型生活支援コーディネーターが調整しました。



b 大学生と高齢者との交流

昨年に引き続き交流は継続されています。五月丘地区では高齢者の外出機会をつくるために、「よりそい隊通信」の内容に川柳募集やクイズなど高齢者の投稿欄を設け、外出の促しにも繋がっています。



津雲台地区では、令和2年度に建設された「グローバルビレッジ津雲台」(大学の学生寮・留学生寮、薬局、サービス付き高齢者住宅)でまちかど保健室(グローバルビレッジ津雲台内の訪問看護ステーションが運営)、大学生と教員、CSWと地域団体(連合自治会、津雲台地区福祉委員)、地域包括支援センターと広域型生活支援コーディネーターとで高齢者の生活課題について検討を重ねることができました。

(オ) 高齢者生活サポートリストの更新

「生活支援サービス編」では、新たに、車いす等で乗車できる福祉車両タクシーの一覧表等を掲載し、「シニアの活動場所編」も新たに活躍場所も増やして、各々改訂版を発行しました。改訂版については、吹田市ホームページや吹田市ケア倶楽部に掲載し、地域ケア会議やケアマネ懇談会での周知・啓発及び各地域包括支援センターの窓口配架では、市民からの相談時にも活用しました。

(カ) 「生活支援コーディネーター～耳より情報局～」

各地域包括支援センターに配架し、フォーラム特別号は、市民フォーラムや地域ケア会議でも配付しました。

(キ) 地域ケア議との連携・連動について

ブロック別定例会の中で、坂道の多い町、スーパーが離れている、買い物をどうサポートするのかというところが議題となり、出された課題について地域団体と意見交換を行いました。

【令和3年度地域ケア会議ブロック別定例会活動報告】

JR以南 地域				
担当地域包括支援センター 2か所				
① 吹一・吹六地域包括支援センター ② 吹三・東地域包括支援センター				
地域情報	人口	39,123人	要介護認定者数	1,611人
	高齢者人口	10,698人	要支援認定者数	714人
	高齢化率	27.3%	事業対象者数	42人

令和3年9月末

令和3年度の報告	
① 検討した事例のテーマと項目、内容など	
<p>第1回:意見交換会 テーマ「コロナ禍での取り組み・実践の報告」</p> <p>第2回:意見交換会 テーマ「風水害時の避難について」</p> <p>第3回:事例検討（包括別で開催）</p> <p>吹一・吹六地域</p> <p>テーマ「介入を好まず本人の認知症の状態の理解が薄い夫への対応について」</p> <p>（項目）認知症に関する事例</p> <p>本人の認知症が進行し、尿失禁が増えているが夫は本人で保清ができていると思込み、支援者や親族からの助言を受け入れることができていない。</p> <p>吹三・東地域</p> <p>テーマ「独居の高齢者を地域で支援するには」</p> <p>（項目）助け合いや近所の方と連携した事例、</p> <p>この2年コロナ禍で外出が減り、歩行をはじめとする身体機能の低下が見られるが、集いの場の再開も地域によってバラつきがあり未だ十分とは言えず、新たな集いの場や地域の担い手について検討した。</p> <p>第4回:学習会 テーマ「高齢者と特殊詐欺」</p>	
② 令和3年度の実践の成果、地域分析や新たに把握した地域課題	
<p>第1回よりオンライン開催とし、コロナ禍で人が集まることが困難な状況であっても地域での実践や課題について意見交換することができました。→(ア)</p> <p>第2回は災害時の要介護者の避難について、地域での実践を共有することで、事業所と地域の協力体制を事前に準備しておくことが必要との認識を共有することができました。→(イ)</p> <p>第3回では地域別で事例検討をすることで、参加者からはこれまでより身近な事例としてとらえてもらうことができました。→(イ)</p> <p>吹一・吹六地域の事例では通院の帰りに認知症カフェなどに立ち寄ってもらい夫の認知症への理解を深めてもらうことやデイサービス以外に地域の活動など家の</p>	

<p>外での活動への参加を提案してみるとの意見もあり、認知症の本人と家族を支援するネットワークづくりの必要性が共有できました。吹三・東地域の事例では徐々に再開し始めた活動の周知の必要との意見だけでなく、身近に集まれる場所での体操の集まりの開催が少ないことが課題としてあがりました。→(ウ)</p> <p>第4回ではコロナ禍で独居高齢者への特殊詐欺被害防止のための吹田警察署からの個別訪問による周知活動が困難という状況について、東地区自治会連合協議会より協力の申し出がありました。→(ウ)</p>
<p>③ 地域ならではの情報共有(地域包括支援センターとCSWの協働した取組等)</p> <p>地域の福祉委員を対象に、地域の事業所、CSWと協働し、高齢者のICTリテラシー向上の取組としてスマートフォン講座を開催しました。</p> <p>東地域で、感染予防に留意しCSWの協力も得て介護フェアを参集で開催し、マイエンディングノートを配布し市民への周知も行いました。</p> <p>吹三東地区は「広場 de 体操」が行われていないため、令和4年度中の開催を目指して取組を開始しました。</p>
<p>④ 令和4年度取組予定(期待する効果など)</p> <p>安否確認、孤独死などの問題だけでなく、ケアマネジャーなど事業者が仕事の枠を超えて支援せざるを得ないケースもあり、認知症の独居高齢者の支援について地域の社会資源との連携や新たな資源づくりをCSW、地域の事業者、住民と連携して取り組めます。</p>

※ ② 令和3年度取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題の項目
文中の(ア)(イ)(ウ)は、下記の令和3年度取組方針の中の該当項目を示しています。

- (ア) ブロック別定例会については、包括別の小単位の開催等、各包括が主体的に運営を行い、個別事例の支援の検討を積み重ねることで地域課題や資源を把握し、地域におけるネットワーク構築につながる取組を進めます。
- (イ) 各包括とCSWの連携を強化し、地域のニーズと参加機関の具体的な地域活動の情報を、構成員と共有できるように取り組めます。
- (ウ) ブロック別定例会から導き出された地域課題については、地域住民や団体、地域の支援者が主体である身近な社会資源創出の検討や、地域づくりを促進する「すいたの年輪ネット(吹田市高齢者生活支援体制整備協議会)」と連動した取組を進め、多方面からの地域のネットワーク構築を目指します。

片山・岸部 地域				
担当地域包括支援センター 2 か所				
①片山地域包括支援センター ② 岸部地域包括支援センター				
地域情報	人口	54,343 人	要介護認定者数	1,940 人
	高齢者人口	13,288 人	要支援認定者数	812 人
	高齢化率	24.5%	事業対象者数	57 人

令和3年9月末

令和3年度の報告	
①検討した事例のテーマと項目、内容など	
<p>第1回：テーマ「コロナ禍の影響により、地域住民に起こっている生活や健康上の問題点について考える」</p> <p>地域住民に起こっている課題や問題点について、オンラインでグループワークを実施</p> <p>第2回：テーマ「コロナ禍において影響を受けた方の支援について」</p> <p>買い物やお金の出し入れがご自身でできなくなった事例について、オンラインで事例検討会を実施</p> <p>第3回：地域別に開催（片山地域は参集、岸部地域はオンライン開催）</p> <p>片山地域：テーマ「普段行っている支援を通じた気づきから、地域にとって必要な資源（地域課題）について考える」といった内容でグループワークを実施。</p> <p>岸部地域：参加者全員が事例を持参。グループ内で事例を1つ選択し、選択した事例についてグループワークを実施。</p> <p>第4回：テーマ「コロナ禍における高齢者の支援について」オンラインで2事例検討</p> <p>1事例目は、本人は通所リハビリを今後も利用したいと希望しているが、身体機能は維持できており卒業を視野に入れた支援の在り方について検討。</p> <p>2事例目は、パーキンソン病の方で症状の日内変動によりリハビリテーションが上手くできない時がある事例について、本人が閉じこもりにならずに趣味活動を継続するために地域でのサポートについて検討。</p>	
②令和3年度の取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題	
<p>第1回目の定例会では、コロナ禍で地域の高齢者のフレイルや認知症が進行しているという意見や、衛生用品などの必需品の購入が増えたことで、家計がひっ迫し金銭的に追い詰められているという切実な声があがりました。また、デイサービスやショートステイ利用時のPCR検査や、新型コロナウイルスのワクチン接種に付き添える人がいないといった課題も上がりました→(ア)</p> <p>ボランティア活動が縮小している中、オンラインでできるボランティアや、オンラインの活用を促進する取り組みが必要であるという意見もありました。→(ウ)</p> <p>第2回目の事例検討では、コロナ禍により高齢者の活動性が低下し、フレイルの進行や認知機能の低下が気になるという声がありました。そのような変化にいち早く気</p>	

付くためには、日ごろからの近隣同士のつながりが必要という意見が出ました。また、相談しやすく、相談を取りまとめてくれるところが必要という意見があったので、身近な相談窓口である介護 110 番フラッグを周知・活用し、地域全体で見守れる体制を目指していきます。→(ア)

第3回目の片山地域別定例会では、坂道が多くてきつい、店が少なく自宅から遠いなどの地域の事情に加えて、新型コロナウイルス感染の不安により外出から遠ざかる高齢者が増えている状況から、気軽に利用できる移送サービスや、集いの場のボランティア不足からボランティアの有償化が必要と改めて認識しました。また民生・児童委員会や自治会等、行政、介護保険事業所が情報共有・意見交換できる機会の必要性について共有しました。→(ア)

岸部地域別定例会では、認知機能が低下し徘徊することがあっても、要介護認定や介護保険サービス、高齢者福祉サービスを利用していない高齢者がいるという課題や、若い利用者は状態の悪化に対する危機感が薄いため、先を見越した支援や支援内容の工夫が必要であるという意見が出ました。→(ア)

両地域共通して訪問理美容や集いの場などのインフォーマルサービスの情報が地域住民に伝わっていないという課題があり、定例会や地域活動などで吹田市高齢者生活サポートリストの周知を図ることとなりました。→(ウ)

第4回目の定例会では、通所リハビリの卒業を視野に入れた支援として具体的な目標を再設定して本人と支援者が合意形成を図るとともに、地域にある運動の場を紹介して本人の卒業に対する不安を解消するということになりました。また病状により症状の日内変動がある方については、状態悪化時の対応を本人だけでなく家族も含めて検討しておくことが重要で、本人の生活環境を把握してリスク管理を行い、利用している交通機関などにも本人の状況を伝えておくなど、生活状況にあった社会資源の活用が必要であるという意見が出ました。→(ア)

③地域ならではの情報共有(地域包括支援センターと CSW の協働した取組等)

各地域ではコロナ禍でふれあい昼食会が中止になり弁当を配布する外出配食を行い、閉じこもりが続いている高齢者の外出を確保する機会となっています。

山手地区では大和大学が地域の高齢者に向けて書いた手紙を福祉委員や民生・児童委員によって届けられました。

社協では、山手地区、千一地区で自治会、包括、大和大学学生の協力によりスマホ講座の開催を予定しています。

④令和 4 年度の取組予定(期待する効果など)

第4回定例会での参加者の意見をもとに、開催内容や開催方法を検討していきます。また、より地域の身近な問題をテーマに取り上げ、地域課題の把握や社会資源の創出に繋げていきます。

豊津・江坂・南吹田地域				
担当地域包括支援センター 2か所				
① 南吹田地域包括支援センター ② 豊津・江坂地域包括支援センター				
地域情報	人口	70,351人	要介護認定者数	1,623人
	高齢者人口	12,631人	要支援認定者数	740人
	高齢化率	18.0%	事業対象者数	83人

令和3年9月末

令和3年度の報告	
① 検討した事例のテーマと項目、内容など	
<p>第1回：書面開催 アンケート 「コロナ感染拡大に伴い生じている地域課題の把握」アンケートを集約し書面報告</p> <p>第2回：学習会 オンライン・参集 テーマ1 「コロナ禍での特殊詐欺について」 大阪府吹田警察署より特殊詐欺の現状と特徴、対策の説明 テーマ2 「障がい者相談支援センターについて」 吹田市障がい福祉室、豊津・江坂・南吹田障がい者相談支援センターより、センターの仕事や相談の現状などの説明</p> <p>第3回：事例検討 オンライン・参集 「介護者の理由により在宅生活が難しくなり行き場探しに困った事例」 ブレイクアウトルームにてグループワーク</p> <p>第4回：事例検討 オンライン・参集 「ショートステイ担当者が受け入れに苦慮した事例」 ブレイクアウトルームにてグループワーク</p>	
② 令和3年度の取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題	
<p>第1回ではアンケートを実施して意見集約を行いました。コロナ禍での地域の困りごととして、ワクチン予約が難しい高齢者が多い、コロナ陽性者の報告が遅れるため、訪問後に陽性であることが分かり対応が大変であったとの意見が出ました。家族がコロナになったときの社会資源が不明であること、適切な医療が受けにくくなっていることが意見としてあがりました。クラスター発生時のマニュアルの作成や感染予防の徹底など各施設でも対策に取り組んでいることを共有しました。今後、ICTの活用で緊急時の対応などが出来るのではないかと意見が出ました。→(ア)(イ)(ウ)</p> <p>外出機会が減っていることで閉じこもりがちになる高齢者が増えており、ADLの低下や認知症の進行などの予防が必要である。孤立しないための方法が必要ではないかという意見が出ました。→(ア)(ウ)</p> <p>第2回では2つのテーマで勉強会を行いました。「コロナ禍での特殊詐欺について」では吹田警察署より吹田市の現状やその手口などの説明を受けました。詐欺内容としては</p>	

還付金詐欺が全体の 2/3 を占めている。方法は年々巧妙化していて注意喚起しているといった説明を受けました。地域ケア会議に参加している一人一人の啓発が有効手段であることの説明を受けました。→(ウ)

「障がい者相談支援センターについて」では豊津・江坂・南吹田地域では精神障がいの相談が多いことや企業が多いことから就労に関する相談が多いことの説明を受けました。高齢者との関係性では「8050 問題」がある。訪問時に同居の障がい疑われる子供がいることが分かるケースもあり、何か気づいたときは相談してほしいと説明を受けました。→(ア)(ウ)

第 3 回の事例検討では緊急時に在宅生活が難しくなり行き場探しに困ったという架空事例をグループワークにて検討しました。緊急時以外でも独居で身寄りのない方、経済的に余裕のない方の行き場探しに困ったことなど、それぞれの担当した事例も発表していただき対応策を検討しました。緊急時にショートステイや病院を探すことが難しいという意見から、リアルタイムに空き情報がわかるシステムやネットワークがあればよいのではないか、緊急時用のベッドを施設や病院が確保しておいてはどうか、介護保険制度では内容や時間に制限があるため 24 時間カバーできるシニアシッターなどがあればよいという意見ができました。また、身元保証制度を公費負担で利用できるようにならないかという意見や、まずは先のことを見越して事前に支援者が準備することも大事との意見も出ました。→(ア)(イ)

第 4 回の事例検討ではショートステイ側から受け入れが難しかったケースを事例としてあげてもらいグループワークにて検討しました。ショートステイ側のネットワーク構築も必要ですが、ケアマネ同士の緊急時のネットワークがあればよいのではないか。ケアマネ同士の横のつながりの強化が必要。緊急時に備えて医療情報は常に最新のものに更新しておくことや最新の情報を一元的に管理できるようなシステムがあればよい。もっと自由に柔軟に利用できる施設があればよいのではという意見が出ました。→(ア)

③ 地域ならではの情報共有(地域包括支援センターと CSW の協働した取組等)

ICT の活用として社協が高齢者を対象にしたスマホ講座を企画していることを共有しました。いずみの園公園では広場 de 体操、南吹田公園記念集会所では、いきいき百歳体操が開始となりました。吹二地区では吹二地区の高齢者の活動を考える会を発足し、今後の活動について社協、福祉委員、民生・児童委員、自治会連合協議会、高齢クラブとともに定期的に話し合いを行っています。

④ 令和4年度取組予定(期待する効果など)

第3回、第4回での事例検討であがった課題に対して、今後は作業部会を立ち上げての取組を検討しており事例検討から地域課題を抽出していきます。オンラインでの開催に関しては定着しつつあり、令和3年度に開催できなかった包括圏域ごとの地域ケア会議定例会を開催し、地域ごとでの地域課題を抽出していくことで解決策などを検討していきます。

千里山・佐井寺地域				
担当地域包括支援センター 2か所				
① 千里山西地域包括支援センター ② 千里山東・佐井寺地域包括支援センター				
地域情報	人口	56,661人	要介護認定者数	1,419人
	高齢者人口	11,139人	要支援認定者数	567人
	高齢化率	19.7%	事業対象者数	95人

令和3年9月末

令和3年度の報告	
① 検討した事例のテーマと項目、内容など	
第1回:「吹田市コロナワクチンの接種状況」	
第2回:「コロナ禍の生活課題」	
第3回:地域別に開催 千里山西地域 テーマ「高齢者に関わっている中で聞いている生活課題と社会資源」 千里山東・佐井寺地域 テーマ「災害時の地域との連携」	
第4回:権利擁護の学習会・事例検討 テーマ「関係機関との連携と後見人の役割」	
② 令和3年度の取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題	
第1回は参集困難な状況でしたが、オンライン開催にて情報共有し地域の繋がり の継続、新たな体制作りにも努めました。→(ア)	
第2回では、コロナ禍で緊急事態宣言が発出し公民館活動等の恒例行事もすべて中止になりました。そのことで地域の高齢者の外出の機会が減少し近隣での顔を合わせる機会が少なくなりました。介護保険利用者の通所サービスの利用控えも多かったため、それらの課題に対して事業所から自宅での入浴方法や移動時の環境整備、自宅でできる運動の提案があり、自立支援・重度化の防止に繋がることを共有しました。→(ア)	
新型コロナワクチン接種については、予約方法が煩雑すぎて予約のできない高齢者の対応を誰がどのように支援すれば良いのか迷ったという意見がありました。施設内の感染予防とワクチンの安全性や有効性について共有し感染予防対策を共有しました。	
第3回は地域別に開催しました。千里山東・佐井寺地域では「災害時の地域との連携」をテーマにオンラインと参集で構成員が顔の見える関係を作りました。グループワークでそれぞれの役割や課題について協議し、今後は地域と連携の仕組みづくりに取り組んでいくことが必要だと多くの意見がありました。災害に向けた連携の仕組みづくりを目指します。→(ウ)	

千里山西地域では坂が多い地域ならではの買い物課題の取組を報告し、その他の生活課題と新しい社会資源について意見集約し、社協CSWと情報を共有しました。

→(イ)

第4回は後見活動と地域とのネットワークづくりのポイントを押さえ学習会を行いました。事例検討では、それぞれの立場で本人の意思決定についてできることを検討しました。地域の中で本人の意向を受け止められる場づくりや利用者の意向の確認に会話しやすい関係づくりなどチーム連携の重要性を確認しました。日常生活において身近な意思決定を繰り返して支援するプロセスが大切であることを学習する機会となりました。→(ア)

③ 地域ならではの情報共有(地域包括支援センターとCSWの協働した取組等)

社会福祉協議会から「ふれあい外出配食や見守り活動」の報告を行い、見守り活動では地域の方との連携が重要であることを共有しました。千里山東・佐井寺地域からは運動を通じた仲間作りを応援する「元気の体操」やコロナ禍でも野外で安心して活動できる「みずな・わかばの会」、介護者を支え合う「介護者家族の集い」、食生活に意識を持つ「おやじの食堂」、一人で運動することができない方を応援する「おさんぼクラブ」等の実践を紹介、千里山西地域からは、コロナ禍でも感染対策を徹底しながら行っている「陽だまりカフェ」等の地域活動の紹介や、福祉委員の声から活動へ広がった春日会館前の「ひろば de 体操」の案内を行いました。

次年度にむけて地域ケア会議で抽出された専門職の視点で見る地域課題の共有や地域づくりのアイデアについて構成員へ協力を呼びかけ、地域課題についてCSWと協働し、地域の関係者との交流を検討しています。

④ 令和4年度の取組予定(期待する効果など)

構成員へのアンケートにてテーマを決定し、地域で考える自立支援や介護保険外サービスと社会参加等、高齢者の健康寿命の延伸を見据えた取組を考えております。

地域包括ケア会議、実務者連携会議の土台のひとつに、来年度は「自立支援型ケアマネジメント会議」が加わることに伴い、有意義な会議になるよう創意工夫を行い、地域課題抽出に努めます。

定例会についても、事例検討や学習会、意見交換などで、全4回を通して地域の関心事を考え、地域課題の解決に向けた有志による取組や作業部会の輪に広げていきたいと思えます。

また、地域の実情をより知るためには、地域住民やCSWとの連携は欠かせず、地域ケア会議の構成員である専門職の方々とすいたの年輪ネットの協議体が繋がるよう、ネットワークの構築と高齢者が住み続けることができる地域づくりを目指します。

山田・千里丘地域				
担当地域包括支援センター 3か所				
① 亥の子谷地域包括支援センター ② 山田地域包括支援センター				
② 千里丘地域包括支援センター				
地域情報	人口	88,707人	要介護認定者数	2,479人
	高齢者人口	22,210人	要支援認定者数	1,004人
	高齢化率	25.0%	事業対象者数	118人

令和3年9月末

令和3年度の報告	
① 検討した事例のテーマと項目、内容など	
<p>第1回:アンケート集約報告・意見交換「コロナウィルスの感染拡大からの1年間で感じた課題、現在行っている活動」「今後の地域ケア会議で話し合いたい事について」</p> <p>第2回:アンケートを用いて意見集約、報告・意見交換「防災について」</p> <p>第3回:アンケートを用いて意見集約、報告・意見交換「防災について」</p> <p>第4回:アンケート集約、報告・意見交換「防災について」「来年度の地域ケア会議について」</p>	
② 令和3年度の取組の成果、地域分析や新たに把握した地域課題	
<p>コロナ禍において、外出機会の減少に伴う体力・下肢筋力低下、認知症状の進行を懸念する声がありました。2018年の災害時は一人の利用者に対し、複数のサービス事業所が安否確認作業を行い非効率だったとの意見が多く、災害時に中心となる人、安否確認の際の役割分担、連絡方法を決めておく必要があるとの声が出ました。電話よりもLINEが繋がり易い、停電や水害に備えて電気関係の備蓄品は2階以上に移す、エレベータが停止に備え備蓄品を1ヶ所にまとめず分ける、避難が長くなる場合お薬手帳を持参する等の重要性を共有しました。→(ウ)</p> <p>災害時にカードを確認しながら安否確認に行けるよう安心・安全・カードの作成に地域で取り組んでいるが、カードの作成を断られることも多い、避難訓練を実施しても参加者が少ないといった声が民生・児童委員、地区福祉委員からあがりました。→(イ)</p> <p>事業所からは、緊急時連絡表やマニュアルを作成しても、普段の業務に追われ時間がなく、更新作業を行う事が難しい、BCPの作成について悩んでいる、災害時、公共交通機関が利用できなくなった時、公共交通機関を利用して出勤している職員が出勤できなくなった時の対応方法、福祉避難所を開設しても、出勤できる職員数により福祉避難所の対応ができないのではないかと不安との声があがりました。また、出来る限り地域に貢献したいが、備蓄品や職員数の兼ね合いで現実難しい、指定を取るのに条件が厳しいので数が少ないのではないかと意見もありました。事業所の職員</p>	

間の連絡手段として、LINEWORKS を利用しているという事業所が多くありましたが、吹田市全体で、安否確認等の情報を共有できる ICT を使ったネットワークがあれば、安否確認にかける時間を短縮できるのではないかという意見もありました。ネットワーク作り、安否確認システム、連絡網等、地域ケア会議の機能を活かして取組を進めていくことを皆で共有しました。→(ウ)

地域の危険箇所、災害時の課題、吹田市内の福祉避難所について情報共有し、市が避難所の安全を確認後開設されるので、身体が不自由な人がすぐに避難できる場所というわけではない点も共有。山田地区では、ハザードマップを見ながら危険箇所について情報共有を行い、道が狭く緊急車両が通りにくい所、舗装されていない道、前回の台風時に倒木が多くあった所等について共有し、災害時の想定をしてシミュレーションしてみることが大切であると共有しました。亥の子谷、千里丘地区では、避難訓練時に介護が必要な人、障がいのある人の参加が無いことが話題にあがりました。また、福祉避難所が坂道の上にあるため、どのように移動するのも課題であり、避難所に安全に行く方法に加え、在宅生活をいかに継続できるかを支援者も考えることが必要との意見もありました。→(ウ)

住民からペットがいるので避難所にいけないという声を聞くと言う意見に対し、ワンタッチパーテーションの利用で避難所に個室が作れてペットも一緒に避難できるとの情報を共有しました。→(イ)

③ 地域ならではの情報共有(地域包括支援センターと CSW の協働した取組等)

民生・児童委員、福祉委員から、両面印刷可能なポストカードに花の写真とコメントを書いて配布したり、体調、詐欺被害、食事、睡眠、困りごとの有無についてマークシート式でアンケートを記入してもらえらるハガキの配布等、コロナ禍で通常の支援が難しい中で工夫している取組についての報告があり、情報共有ができました。

山二地区防災対策委員会では 5 月より「山二防災 You Tube」を開設。大阪大学災害ボランティアサークル「すずらん」と共同で防災テクニックの紹介をしたり、千里丘北のビバホームでの「防災設備の見学と説明を聞く会」にも参加しています。古い一戸建ての多い地域では、可動式小型動力ポンプを設置しているという報告がありました。

山一地区では、防災マニュアルを作成、13 ページにわたるマニュアルを、見やすいように 1 枚にまとめた物も作成したとの報告もありました。

④ 令和 4 年度取組予定(期待する効果など)

新型コロナウイルスの感染状況がどうなるか分からない中でも、ZOOM 等オンラインを活用することで、それぞれの地域や事業所の取り組みの情報共有を行い、困った時にはお互いを助け合える地域づくりを目指して会議を開催していきます。会議で取り上げるテーマについてはアンケートで意見を集約します。

千里ニュータウン・万博・阪大ブロック地域				
担当地域包括支援センター 4か所				
① 桃山台・竹見台地域包括支援センター② 佐竹台・高野台地域包括支援センター				
③ 古江台・青山台地域包括支援センター④ 津雲台・藤白台地域包括支援センター				
地域情報	人口	69,290人	要介護認定者数	2,949人
	高齢者人口	20,015人	要支援認定者数	1,464人
	高齢化率	28.9%	事業対象者数	124人

令和3年9月末

令和3年度の報告	
① 検討した事例のテーマと項目、内容など	
第1回：個人ワーク テーマ「コロナ禍での地域活動や業務において、起こったことや困ったこと・工夫したこと」	
第2回：個人ワーク テーマ①「コロナ禍でも行えそうな・行った(行う準備がある)地域での取り組み」 テーマ②「千里ニュータウン地域で暮らす高齢者のみ世帯の『近助』について、現状と支援者側の課題」	
第3回：事例検討 テーマ「認知症があっても暮らしやすい街」 (項目)「認知症に関する事例」 事例概要：認知症 独居。介護保険サービスを利用しながら生活をしているが、問題行動が発生。近隣住民が対応に苦慮している。	
第4回：ミニ学習会テーマ「権利擁護について 認知症の人の権利を守るために」	
今年度はコロナ感染拡大防止のため会場によっては人数制限が必要であったり、グループワークは行えなかったため、個人ワークシートを活用しました。	
② 令和3年度の実績の成果、地域分析や新たに把握した地域課題	
第1回の個人ワークシートには、千里ニュータウン地域のほぼ全ての地域関係者の地域活動や業務において、今までに経験・体験したことがないことが起こっていること、その中で様々な感染予防対策に取り組んでいること、地域関係者等が地域活動や業務において様々な取り組みや工夫を行ったこと、高齢者自身が積極的に何かを行ったことで生活の活性化が図れたこと等の様々な内容が書かれていました。コロナ禍のため食事会等の交流の場や機会がなくなっている中で、お弁当に手紙や折り紙をつけて配布する等の取組、見守りの電話等の取組、チラシ配布を行ったとの報告があり、情報を共有しました。	
→(イ)(ウ)	
第2回では犬の散歩時に高齢者や小学校の登下校の児童への声掛けや、ワクチン接種が進めば段階的に接触を戻していけるのではないかと、小学生の笛の練習を施設等のバルコニーで聞く機会を定期的に作り交流の場とする等の取組について意見が	

出ました。実際に地域で行った取組として、認知症カフェ交流会と地域でくわいの栽培、収穫をし、くわいがあることで立ち止まり、コミュニケーションを図ることができたと、今後も継続するとの報告、情報を共有しました。→(イ)(ウ)

近所の方がゴミ出しをしてくれる人がいる一方で、隣近所に誰が住んでいるかわからない、関わりを拒む人もいる中で距離を保ちながら関係を築くことが難しい、新たに『近助』を作る方法がわからない、どこまで介入すればよいのかわからない等の課題もあり今後検討が必要であることを共有しました。→(ア)

第3回の事例検討では「地域で1人暮らしをしている認知症の人はこれから増えていく」ことを前提に地域力を高めることや、地域の人々の理解や共通認識が必要、認知症が進行し行動がエスカレートした時にどうしたらよいか、話が広がれば付き合いのない人がどう思うか心配、顔なじみであっても交流がないのであればどう交流を作っていくかとの課題があがり、情報の共有、関係性の構築の場が必要であり、施設や事業所の専門職も地域に目を向けていくことが重要等の意見もありました。認知症の人が増えた時、地域で何ができるのか、関わるスタッフも育てていく必要があり、認知症について勉強会をしてほしいとの希望がありました。→(ア)(ウ)

第4回は、認知症の人の権利擁護について、制度や意思決定の重要性について学習しました。意思決定支援については、本人の「自分は大丈夫」、「本人がそもそも困っているのか」を考えて支援することが必要であるが、命の危険がある場合は守られることが最優先になる。周囲に迷惑が及んでいる場合などは、他人の権利と自分の権利のバランスをどう考えるかの意識が支援者には求められるとの意見がありました。→(ア)

③ 地域ならではの情報共有(地域包括支援センターとCSWの協働した取組等)

認知症カフェで利用者と栽培した吹田くわいの種イモを郵便局でも栽培し、収穫祭を行いました。今後も企業と連携として取り組む予定。地区福祉委員からは、マンションの管理人に独居高齢者の日常生活での困りごとを聞き把握することで、何かあれば手助けできることや、一人暮らしの高齢者が自粛されている中、見守り電話をしたり、「ふれあい昼食会」の代わりに「ふれあい外出配食(お弁当を取りに行く)」を実施。世代間交流(手紙での交流)においても感染予防対策に努めた上で、開催した地域もあったことを周知、共有しました。

④ 令和4年度取組予定(期待する効果など)

地域別定例会の検討、小学校区でのグループワークなどを継続して行うことで顔の見える関係づくりを目指し、地域の問題に取り組んでいきます。できるだけ多くの方が参加できるように開催方法の検討をし、事例検討、意見交換、学習会、情報共有の機会を作ります。

4 令和4年度(2022年度)の取組の予定

(1) 地域ケア会議の運営

令和4年度は、ブロック別・地域別定例会や自立支援型ケアマネジメント会議で抽出された地域課題を事務局会議で集約し、全市的な地域課題かどうか精査する中で、地域での解決に向けた支援であれば「すいたの年輪ネット」と連動し取組を進めていきます。全市的な課題であれば実務者連携会議で共有し、地域包括ケア会議で課題解決に向けて提案を行います。また、包括とCSWは定期的に情報共有を行い、

コロナ禍であっても地域のニーズの把握に努め、課題解決に向けて連動して取り組めます。

令和4年度は、定例会4回(ブロック別・地域別)、実務者連携会議、地域包括ケア会議を各1回、センター別随時会を必要に応じて開催します。



令和4年度の取組方針

- (ア) ブロック別・地域別定例会については、地域の実情に合わせ各包括が主体的に運営を行い、個別事例の支援の検討を積み重ねることで地域課題や資源の把握を図ります。コロナ禍であってもオンラインを活用した開催も含め、地域におけるネットワーク構築につながる取組を進めます。
- (イ) 各包括とCSWの連携を強化し、地域のニーズと参加機関の具体的な地域活動の情報を、構成員と共有できるように取り組みます。
- (ウ) ブロック別・地域別定例会や自立支援型ケアマネジメント会議から導き出された地域課題については、地域住民や団体、地域の支援者が主体である身近な社会資源創出の検討や、地域づくりを促進する「すいたの年輪ネット(吹田市高齢者生活支援体制整備協議会)」と連動した取組を継続し、多方面からの地域のネットワーク構築を目指します。

(2) すいたの年輪ネットの運営

令和4年度は各委員の意見を市の実態を反映する意見として大切に検討し、活発に議論していきたいと考えています。また、広く市民の声を取組に生かすために、地域の小さな単位での話し合いの内容も、できるだけすいたの年輪ネットに議題として取り上げ、側面的な支援に取り組みます。

令和4年度のすいたの年輪ネットは、3回開催します。令和3年度を取組予定や実践を引き継ぎながら、以下の3点に関する協議を進めていきます。

令和4年度を取組方針

(1) アクティブ シニアの 活躍

- ・アクティブシニア活躍の機運を後押しするため、地域元気アップ講座の開催と助け愛隊ボランティア養成講座による活動の拡大を目指します。
- ・高齢者をはじめとする住民が地域社会に関わることで、住民同士の繋がりや支え合いが、心身の健康維持に繋がるように住民や関係機関等との検討の場を持ちます。

(2) 新たな地域 活動等の 創出

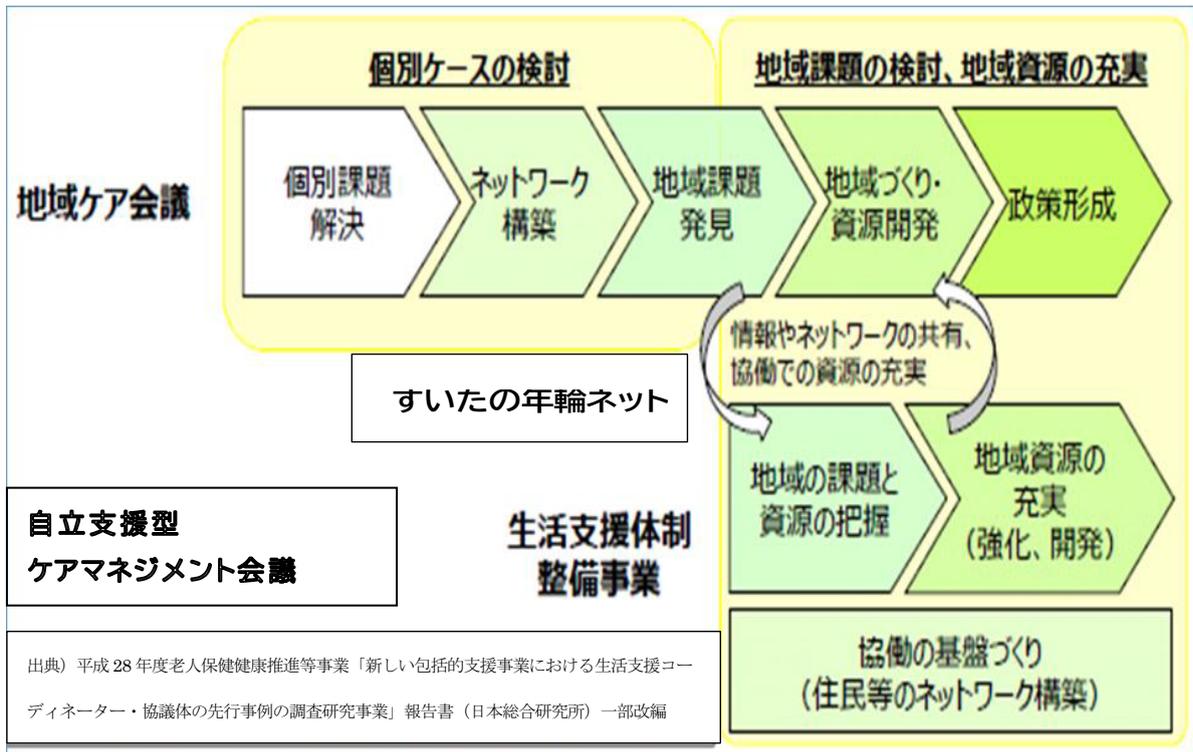
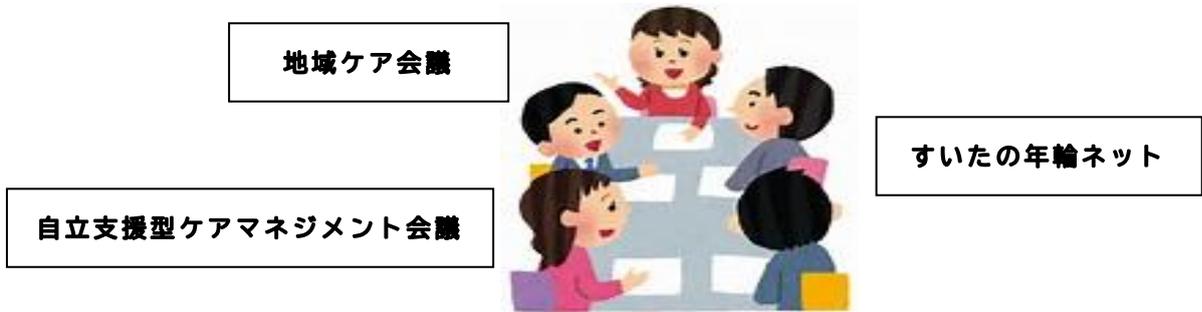
- ・コロナ禍であっても新たな地域活動等の創出が再開できるように支援していきます。
- ・助け愛隊の活躍を参考に、小学校区ほどの単位での、地域に根ざした細やかな住民主体の助け合い（生活支援）活動のさらなる創出の拡大に向けて、地域の特性に合った形での助け合いに繋がるよう、必要な支援を行います。

(3) 地域課題 の解決に 向けた 取組

- ・オンラインを活用しながら、地域での特性を活かし、地域の課題に向けた「意見交換会」を大切に、解決に向けて進めていきます。
- ・ICTの活用拡大と共に、高齢者生活サポートリストの情報周知・啓発に努め、活用にも支援していきます。
- ・移動支援等については地域の関係機関と連携をしながら取り組んでいきます。

(3) 地域ケア会議とすいたの年輪ネットと自立支援型ケアマネジメント会議との連動の促進

地域ケア会議とすいたの年輪ネットとの連動した地域課題と自立支援型ケアマネジメント会議で個別の事例検討の積み重ねから抽出した地域課題を擦り合わせ、地域課題の解決に向けて提案や高齢者の生活支援に繋がるような連動の強化を図っていきます。



吹田市地域ケア会議 令和元年度の報告及び令和2年度の取組より抜粋

(1) 令和3年度(2021年度) 地域ケア会議各ブロック(包括) 別定例会、すいたの年輪ネットの参加者数
(単位:人)

ブロック名称	包括名称	令和3年(2021年)			令和4年(2022年)	備考
		5月	7月	11月	1月	
JR以南	吹一・吹六	43	41	19	34	当該月の第3火曜日等
	吹三・東			18		
片山・岸部	片山	51	43	16	36	当該月の第3水曜日
	岸部			30		
豊津・江坂・南吹田	豊津・江坂 南吹田	51(書面)	52	50	52	当該月の第3金曜日等
千里山・佐井寺	千里山西	36	31	14	29	当該月の第3木曜日
	千里山東・佐井寺			39		
山田・千里丘	亥の子谷	26	31	31	27	当該月の第3火曜日
	山田					
	千里丘					
千里NT 万博・阪大	桃山台・竹見台	62(書面)	19	29	23	当該月の第3水曜日
	佐竹台・高野台					
	古江台・青山台					
	津雲台・藤白台					
合計		269	217	246	201	総合計 933 人
すいたの年輪ネット (吹田市高齢者生活支援体制整備協議会)		年3回開催 (令和3年6月24日、11月2日、令和4年1月31日)				

- 地域ケア会議
 ・実務者連携会議 令和3年8月19日 オンラインで開催
 ・地域包括ケア会議 令和4年3月18日 オンラインで開催
 ・随時会 令和3年10月13日 11月17日 令和4年2月7日
 ・研修会 令和3年12月20日 オンラインで開催

(2) 令和4年度(2022年度) 吹田市地域ケア会議、すいたの年輪ネット 開催日年間予定表(単位:日)

		令和4年(2022年)										令和5年(2023年)			備考		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
地域ケア会議	地域包括ケア会議														9	各ブロックの座長又は副座長参加	
	実務者連携会議					18										当該月の第3木曜日	
	研修会										未定					年1回(10~12月頃)	
	ブロック別・地域別定例会	JR以南		18		20						16		18			当該月の第3水曜日等 (内本町コミュニティセンター)
		片山・岸部		18		20						16		18			当該月の第3水曜日 (総合福祉会館等)
		豊津・江坂・南吹田		20		15						18		20			当該月の第3金曜日等 (総合福祉会館等)
		千里山・佐井寺		19		21						17		19			当該月の第3木曜日 (千里山コミュニティセンター)
山田・千里丘			17		19						15		17			当該月の第3火曜日 (亥の子谷コミュニティセンター)	
千里NT・万博・阪大		17		20						16		18			当該月の第3水曜日 (千里ニュータウンプラザ) *5月不定期		
すいたの年輪ネット (吹田市高齢者生活支援体制整備協議会)		令和4年度は3回の開催を予定															

* 地域ケア会議地域別定例会を開催する際は、会場が変更になる場合があります。